



み
ず
が
め
座

囁

たい
心

細説心語

ADULT ONLY
R18
成人向け



みずがめ座に
囁きたい心

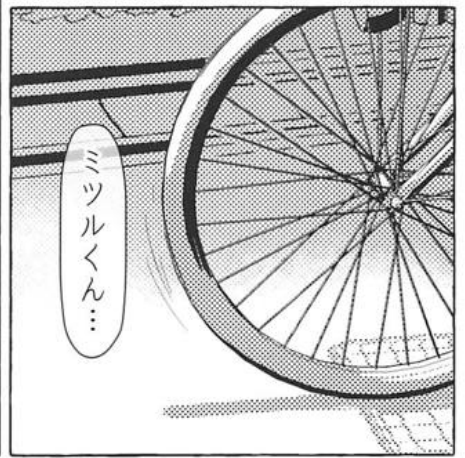
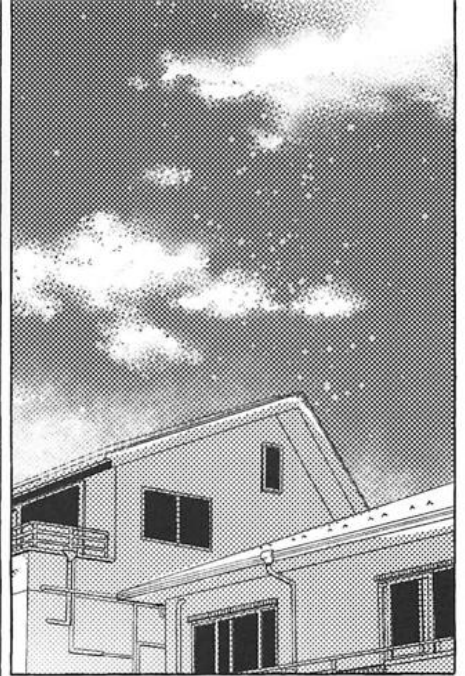
細説心語



大したことじゃありませんよ

もう遅いですし…

送ってくれてありがとう



ミツルくん…



先週はみんなで見に行こうと声かけられたけど二人きりの時にココロさんに誘われるまでは正直興味はなかった



ミツルくん…



こちらこそ誘ってくれて…



ミクのおかげだね…



そもそも最初から
断る理由はないのだから

本当！

うん
行きますよ



流星群見に行かない？

そう聞かれたら
断るなんてとてもできない



誰かから物をもらった
ことに心が踊り…

そしてはじめて
お返しについて悩んだ…



いつからか
彼女に惹かれたのは

ミツルくんのコート
あったかい

横顔を見てドキドキして…



彼女と同じ電車に乗ろうと
登下校時間を変えたり…

自分が贈った物をつける
彼女を見て誇らしくなったり…

二人きりでいたいから手伝う
言って園芸部に行ったり…

そうですね…

ミクに感謝しないと…

こここのところの思い出は彼女でいっぱいだ
今日だって自分から帰宅に付き合おうと言いだした
これは僕のがままでもある



みんなも夜遅くまで
とかいけないし

そんな
十分楽しめたよ



今日は楽しかったね

最後まで見れませんでした



おやすみ

僕はこれで…

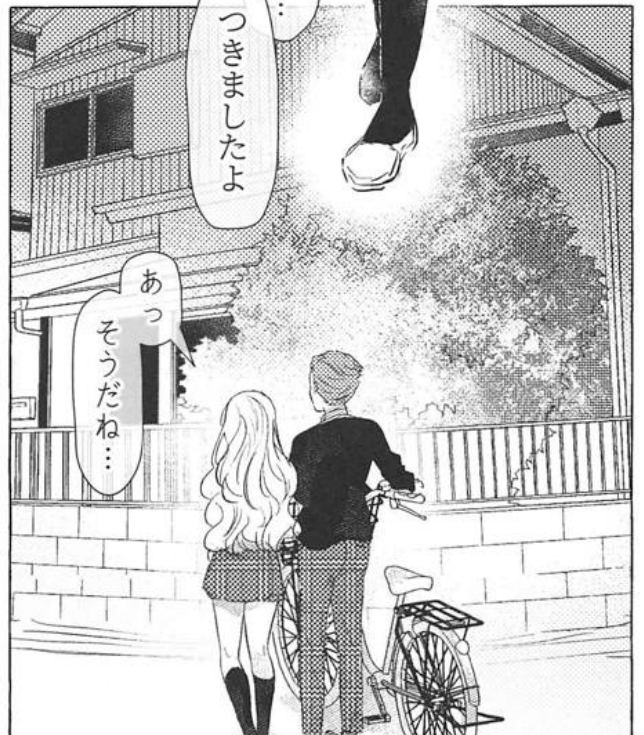
うん

ミツルくんもおやすみ



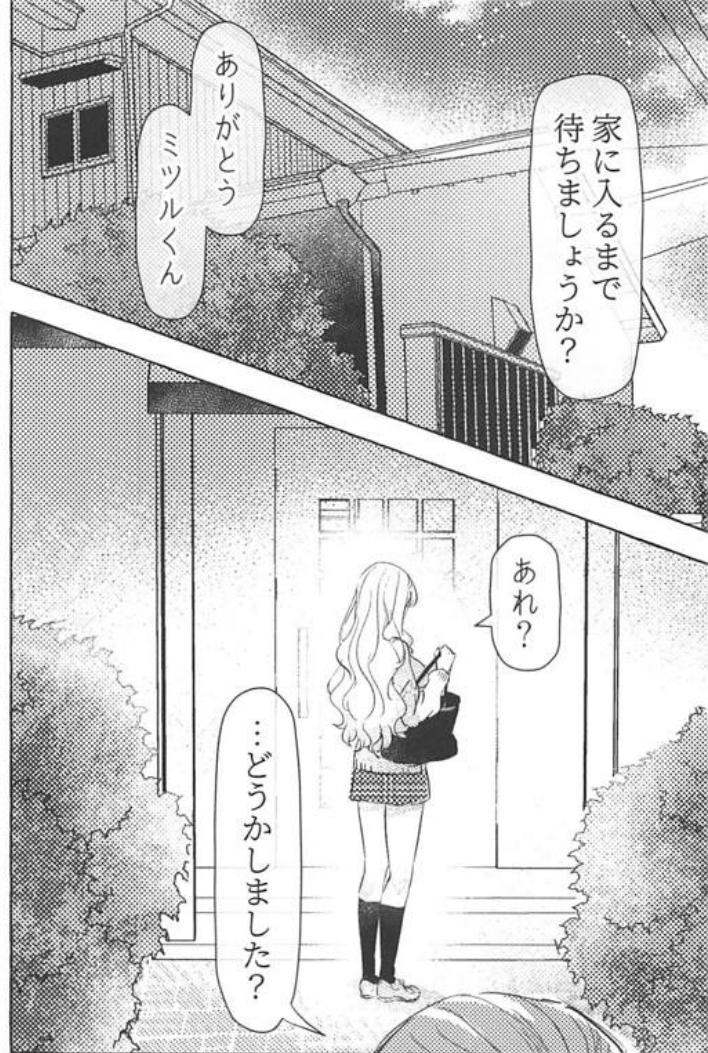
それにミツルくん
送ってもらって

本当に…



つきましましたよ

あっ
そうだね…





あのね…
それとも…



他にも当たってみますよ
イクノなら起きていると思う



うん…



えっ？

ミツルくんの家に…
お邪魔していいかな？

イクノちゃんには…



別に…
構いませんけど…



ミツルくんなら
少しは…気持ちが悪く思う

迷惑かけたくないから



彼女とは微妙な距離感のまま
僕は…最低だ



今の関係を壊したくなかったから
距離を置くのは嫌だけど
抱きしめる勇氣もない



バレたら大事になるというのに
他にいくらでも選択肢があったけど
断らなかつた



ここが…
ミツルくんの部屋

色々用意しますから
まずはお風呂に
入ってきてください

それと
服とタオルは
僕の備品だけです…

え？

それで十分だよ



部屋を出てすぐが
バスルームです

23:30

はあ

ココロさんの気持ちに気づいていない
と言うと嘘になる

しかしどうしても勇気を持ってないんだ…
他の人を巻き込むのも怖いけど
何より怖いのは僕にその気持ちに
応える資格がないかもしれないことだ

ボディソープとかも
僕のものでいいですね？

ありがとう

ミツルくん

彼女が好きなのはわかりきっている
だがその一歩すら踏み出せないようでは
いくら好きでも意味がないのだ

ほ…

僕も入ってきます！

ズキーン

お風呂上がったよ

とんとん

ミツルくん…

がらり

ベッドを使っているから

もう寝よう

うん

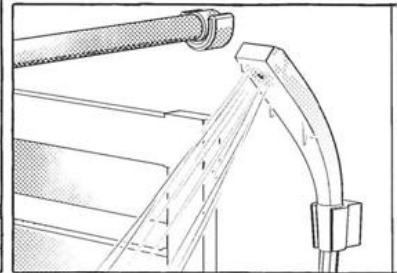
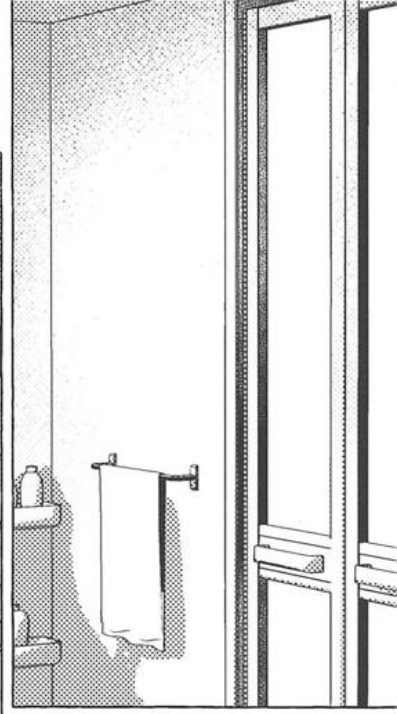
わかった



さっきのあの姿が頭から離れない
僕ってなんて最低な人間だ



ミツルくん…



普段からそういうこと考えているにしても
今日くらいは抑えてもいいだろう？
いったいナニを期待しているというのだ…



早く横になりましょう

そんなじゃ寝つけ…

ミツルくん

隣に来てもらってもいいかな？



話したいことが…

あるの

……？



ココロさん？

まだ寝ないのですか？

あ…うん…



いつも私のわがままに
付き合ってもらってるのに

それでもミツルくんは
優しくしてくれた



どうしましたか？

ごめんなさい

迷惑だったよね？

そんなことない

考えすぎです



私を…

見捨てるはずなのにね…



一晩泊まるだけですし

そんな大げさな…

違うの！



そうじゃない…



いつも慣れないことをさせて

たくさん迷惑をかけた

なんかミツルくんの同情を

利用しているみたいで



ずっとひどいことをして来た

こうやって…



明日からは…

普通の友達みたいに…

なってみるから…

これが最後のわがまま

ごめんね



本当に大好きなんだけど…

ミツルくんに甘やかされると、私

あらめ期待をしまして

あなたにも迷惑かかるとしようし…



あんたね…

その曖昧な態度に傷つけられる人もいるってわからないの？



…



嫌です！

迷惑なんかじゃない！

僕が臆病で卑怯だから

あなたを傷つけた…

謝るのは僕のほうです

だからもう…



もう逃げたりしない

傍に居させてください

僕もココロさんのことが好きだから

そんなこと言わないでください…



なんだ：思いを打ち明けるのって：
こんなにも簡単なことだったんだ

ちゅ



これから
甘え続けて…
いいの？



これから

それに
応え続けます

サスツ

溜まりこんだ感情が
一気に解放されて
もう冷静なんか
にいられない：



すり



もうあなたへの
欲情を
抑えたりしない：



うん…

構いませんよ…

ぺた

自分に素直になるのは：
こうも他愛のないこと
だったのか



ココロさん…

好きです

(はっ)

ハスッ…

はっ

じゃあ…
もっかい好きって言うってくれる？



何度でも言おう

ハッ

ココロさんのすべてが
好きなんだ

ふん

うん

とてもきれいですよ

(はっ)



こんな姿でも…
好き？

ん…

ハッ

おー



は...はあ...

いっぱいキスされちゃった...

ううん...
ミツルくんになれるのは好きだから...

こんなところでも...

していいよ

トロ...



ごめん...
やりすぎましたか?



が...

ア...



が

うん

ばっ
...嫌だったら
言ってください



打ち明けたばかりなのに
もう欲望のままに彼女の体を貪っている
夢のような淫靡的な光景だ

だが舌先に触れられるたびにピクツとする陰核は
これが僕の待ち望んでいる現実だと訴え続けた

何度も妄想した光景が
今は現実となった

最初はどうしたらいいか
わからなかった

頭の中は真っ白で
途方に暮れて震えていた

ミツルくん……



彼女への責めが楽しくなり
思うままに気に入って
くれそうな行為を続けた



だがその艶かしくも
我慢している吐息を聞いた途端
僕は段々と冷静さを取り戻した





ミツルくんの手…

んっ…気持ちよくて…

恥ずかしいところ…

全部見られちゃった…

はっ

ぐちっ

はっ

ぬちゅっ

ぬちゅっ

はっ

はっ

びびん

僕からすれば
今のココロさんは

愛しくて…

そう…?

実はいつもミツルくん
のこと考えながら

自分で触ってたの

はっ

でも触ってもらうほうが…
自分でするより気持ちいいの

そんな自分が…

いやらしくて…

それなら…
僕も同じです

ココロさんのこと
考えながら自分でしてた

はっ

はっ

ギョッ



ずっと…



ずっと

こうしたかったんだ



じゃあ：
もう我慢しなくて
いいんだよ

だって：
私もミツルさんと
最後までしたいから…

これがミツルくんの…

大きくて…固い…

はぁ
ムムム…



ココロさん…

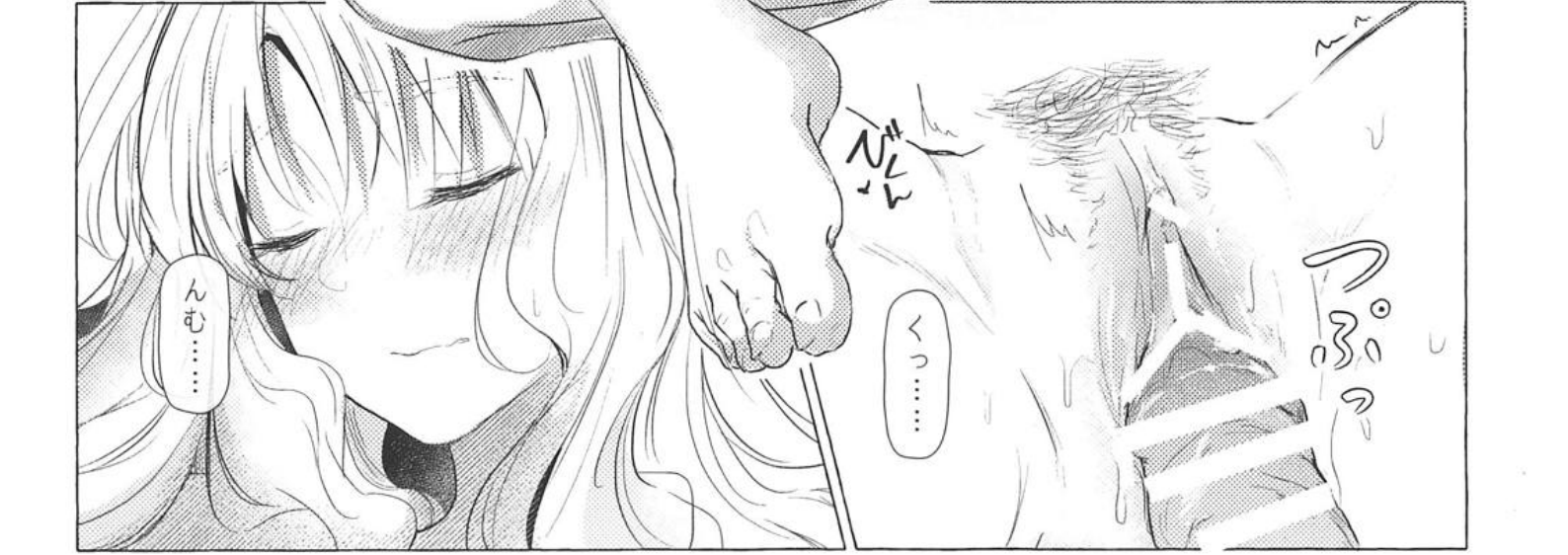
ムムム…

ムムム…
ムムム…
ムムム…

ココロさんの中に…
入れたくてしょうがないから

うん…

私も…我慢できなく
なっちゃった…



んむ…

くっ…

くっ…



あうう…
大きい…

ガクッ



うん…
でもそちらは…
苦しくないのですか？

ミツルくん…気持ちいい？



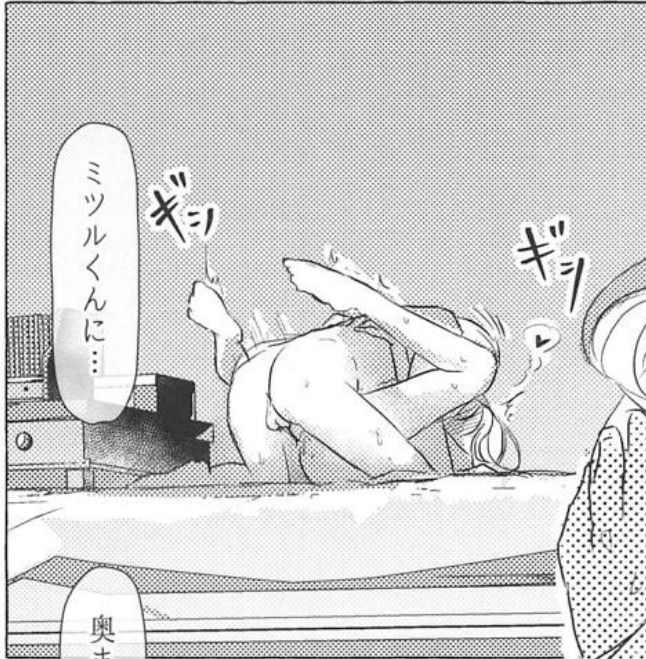
ちよっと窮屈な
感じだけど…

入ってくるのが
わかるから嬉しい

ミツルくんにも私の全てを
感じて欲しいから…

やめないで…
くれる？

ぎゅぎゅ



もっと深く
挿れたくなるぞ

ミツルくんは...

奥までキスされて...

自分じゃ...

届かないところまで当たって

ミツルくんの...あっ...

本当に大きい...

そんなこと言われたら

きゃっ!

びっ

もっと深く

挿れたくなるぞ

あ

ふっあ

ジッポッ

ジッポッ

ギョ

ギョ

はっ

はっ



急に締まってきた
吸い付いているようだ

コロコロん...

ミツルくん...
ミツルくん...あつ...

ギン

キュッ

キュッ



ごめんなさい

おろろ

おろろ

感じてきたから...
体が...勝手に...

ぐっ...
こんなじゃ...すぐ...

だ...
だ...



満たされて...

体の中が...
はっ

さらに...
大きく...

ぐい



ミツルくんとするの...
好き...

はあ...はあ...

気持ちよくて...
夢みたいで...

好き...

き...気持ちいいよ...



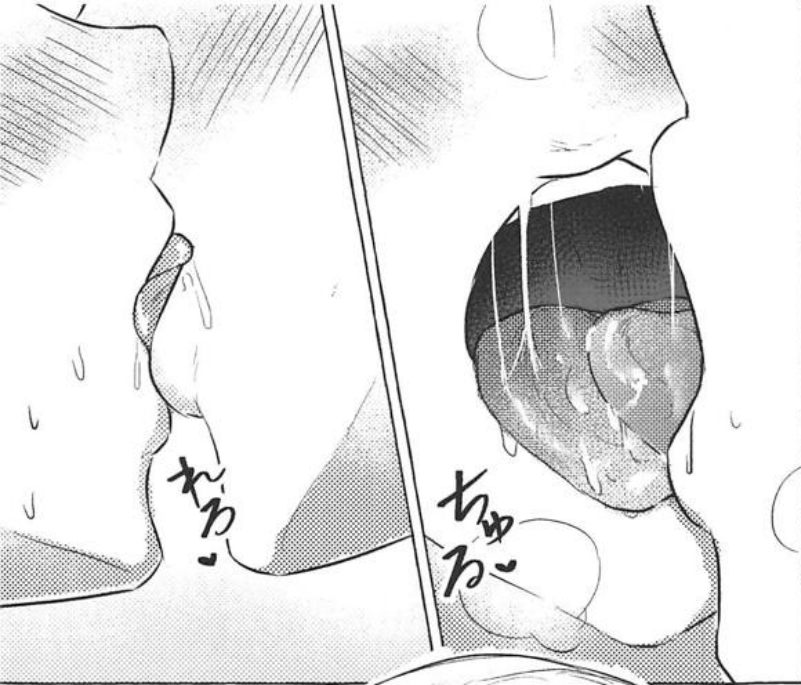
決して...

ココロさん...

夢じゃありませんよ

んむ...

ちゅむ...









そ…そうじゃなくて

ミツルくんが
言ってくれたこと

とでも嬉しかったの

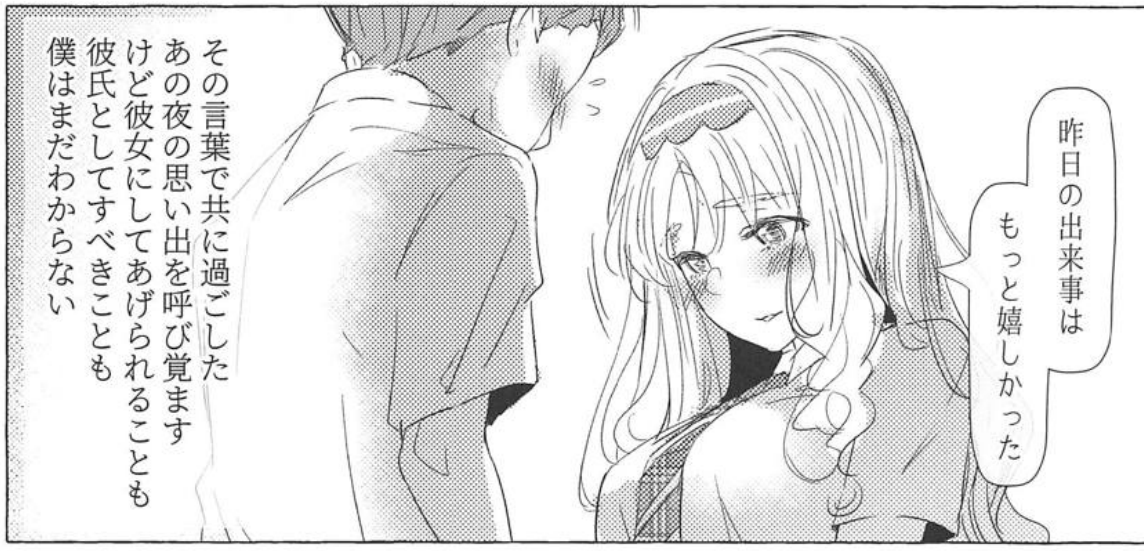


す…すみません



なんでもない

昨日のことを思い出して…



昨日の出来事は
もっと嬉しかった

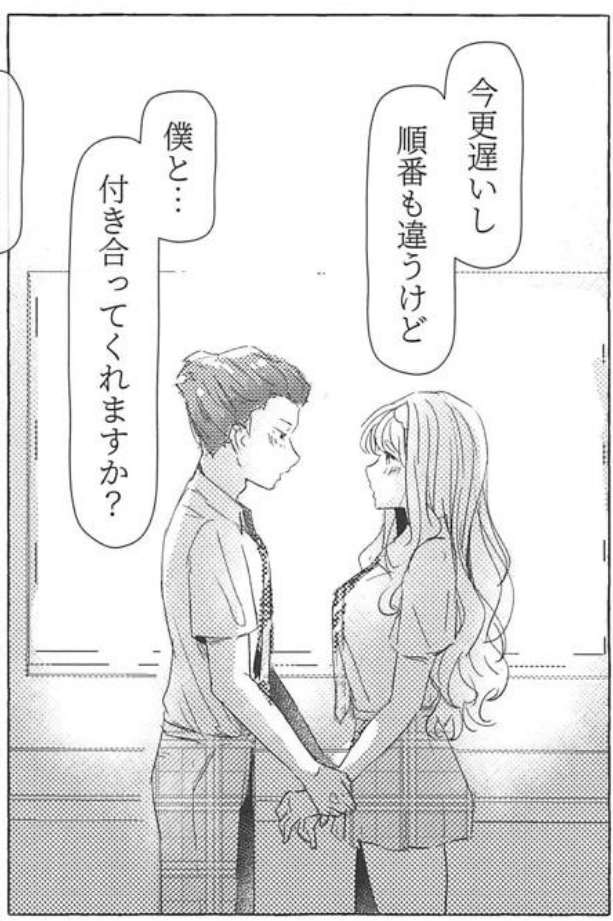
その言葉で共に過ごした
あの夜の思い出を呼び覚ます
けど彼女にしてあげられることも
彼氏としてすべきことも
僕はまだわからない



でも…



…うん!



今更遅いし

順番も違うけど

僕と…

付き合ってくださいか?



…ココロさん!

ただ一つわかるのは…
ココロさんを幸せに
したいということだ
彼女にもっと燦めくと
素晴らしい笑顔が
咲いてくれるように

うん

家の人が起きる前に
出かけましょう



あとがき

最後まで読んでくれてありがとう、キャロットです。
いつのまに第三作のミツココ本だな…あっという間だね。

この物語は自分のココロインスタシリーズと関連が強い、
前の物をまだ見ない方が、
どうぞツイッターやブルクをフォローしてください、
これからインスタシリーズの創作も続きます。

学パロと原作の初夜の一番大きな差は、
ミツルの性知識の有り無しと思います。
だからこそ初めからミツココ両方でもエッチなセリフを言える、
とっても楽しいです…
ほかにも、経験したことのないが、
好きな人をおかずにすること素敵と思います。

とりあえず自分の好みたっぷりの一冊です、
私のわがままをお許してください。

次の本も学パロのミツココです、できれば夏の時期出ます。
オリジナル本の創作も始まります（こちも成人向です）、
引き続きよろしくお願ひします、ご購入ありがとうございます。

奥付

誌 名
「みずがめ座に囁きたい心」
細説心語

発行日
2019/06

著 者
キャロット(蘿蔔)

通訳者
うしぐるま@kurumax

発行サークル
キャロットアカデミー
(蘿蔔農學院)

印刷
株式会社栄光



@RoBosquat



@RoBosquat



id=316889



zenkixd



zenkileung0210@gmail.com

18歳未満の購入を禁じます
無断転載を禁じます



蘿蔔農學院

キャロット✽アカデミー

Carrot Academy